

学校教育目標

『自ら学ぶ子 心豊かな子 たくましい子』



# あずっ子

こどもも おとなも 元氣いっぱい 東町小!

入間市立東町小学校学校だより

1月10日発行

発行者 校長 野口正孝

在籍児童数475名(1/10現在)

## 新年あけましておめでとうございます

令和5年、新しい年が始まりました。保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年も本校への変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和4年の今年の漢字は「戦」でした。ウクライナとロシアの戦争やワールドカップでの戦いから、この漢字が選ばれたそうです。この漢字に私はあまり良い印象を持ちません。令和4年の国内十大ニュースを見ても、暗いニュースが多かったように感じます。安部元首相の暗殺や遊覧船沈没事故、新型コロナウイルスのまん延など、気持ちが暗くなるようなニュースが多くみられました。株価も1年で大きく下がり、12月には日銀の政策変更もありました。経済もよくありませんでした。

では、今年、令和5年はどうでしょうか。今年の干支は「兎」。ウサギはぴよんぴよん飛び跳ねるので、兎年は飛躍の年と言われています。相場の格言には「辰巳天井、午尻下がり、未辛抱、申酉騒ぐ、戌は笑い、亥固まる、子は繁栄、丑はつまずき、寅千里を走り、卯は跳ねる。」というものがあるそうです。辰年、巳年は景気が良く、そこから株価は下がり始め、紆余曲折を得て兎年には株価が跳ねるという意味だそうです。また、六十干支では「癸卯」といい、昨年までの様々なことに区切りをつけて、次に向かって成長できる年になるといわれています。つまり、兎年は様々な意味で、大きく飛躍できる1年ととらえられると思います。もちろん、干支での話ですが。

さて、こうした飛躍の年にするためにも、学校は様々なことに取り組まなければならないと思います。まず変わらなければならないのは、新型コロナウイルス感染症に対する対応です。まん延防止に気を付けながらも、発生前の教育活動に戻すよう努力したいと思います。PTA活動や学校応援団の活動に関しても、保護者の皆様と相談しながら変えていく必要があると思います。まさに「With コロナ」に対応しなければならないと思います。また、ICT教育も進化しなければなりません。令和2年度末に入間市では全児童生徒にタブレットを配布しました。私は令和3年度は「ホップ」、令和4年度は「ステップ」、そして令和5年度は「ジャンプ」の年だと考えています。今年度は様々な場面でタブレットを用いた学習が行われました。これまではタブレットに慣れるという観点から、まずは調べ学習から始めました。2年を経て、今ではタブレットを使って「調べる」学習から、「比べる」「まとめる」という学習に進化しています。令和5年はさらに子どもたちがタブレットを「活用」して、学習を進めるように取り組めればと思っています。11月には2か年にわたる体育科の研究発表も控えています。本校にとって今年が飛躍の年になるよう願っています。

先のことばかり話しましたが、学校の1年は残り3か月です。3学期はまとめの学期といわれます。1年のまとめをしっかりして、次の学年につなげる大切な学期です。私は1年のまとめとは、「今年学んだことが当たり前のようにできること」と思っています。学習はもちろん、生活面でもそうだと思います。係や当番の仕事、掃除、学校の決まりを守るなど、1年間で学んだことは多いと思います。その一つ一つが教師に言われなくてもできるようになってほしいと思います。